

( 令和7年9月10日 午前9時00分 開始 )

○議員（河野 浩一議員） おはようございます。通告書にしたがって一般質問を行います。

私の都合で1番の中学校統合については後回しにして、農業発展についてを先に行いますので、御了承を頂きたいと思います。どうかよろしくお願いいたします。

令和7年3月31日の宮日新聞に載っておりました、前日の3月30日の日に東京都内に3,200人の農民が集まり、「令和の百姓一揆」と名づけて、トラクター30台を連れて港区一帯を行進したそうです。代表者は山形県の農民の人で、農民が消え、作物が消え、村全体が消えようとしているとして農業の衰退に危機感を示しました。

これは、作物が消えとか、ちょっと話が大き過ぎるような気がしますけど、まさにこの川南も似たような状況ではないかと思っております。毎年毎年、耕作放棄地が増え、後継者も減っております。このことに対して町長はどう思っておられるのか、何か対策があるか質問いたします。

あとの質問は質問席で行います。

○町長（宮崎 吉敏君） 河野議員の質問にお答えします。

農業を経営する全ての方が、将来的に安定した農業経営を目指すためには、4月に閣議決定された同法に基づく食料・農業・農村基本計画において定められた——ここが大事だと思うんです——合理的な費用を考慮した価格形成が重要になると考えられています。今後、食料・農業・農村基本計画に基づく国の各種施策等を注視しつつ、担い手に対する各種支援を継続するとともに、農業経営の最適化を目指したデータ駆動型農業の事業化の検討を実施したいと考えています。

また、これまでも担当職員が農家の方と直接、対面等でお話する際に御意見等を伺うことは常にある状況です。必要に応じて、その内容については、その上司、内容によっては副町長、町長まで情報共有を行ってきております。直接、農家の声を聞くことは大事だと考えますので、今後も引き続き情報収集を図っていきたいと思っております。

また、私も農家の方と会う機会には積極的に声を聞くよう努めたいと思います。

詳細については担当課長から申し上げます。

以上です。

○産業推進課長（河野 英樹君） 農業経営の収益向上に資する具体策でございますが、本年度の一般会計予算等にて計上している関係費目等であると思っております。

なお、その代表的な中身について触れますと、物価高騰により消費低迷が続く肉用牛生産者への収益向上策として、川南産牛肉の消費拡大事業880万や特産品送料助成事業7425万円など、潤沢ではないかもしれませんが、多岐にわたる農業分野の収益向上対策

に努めているものと思っております。

以上です。

○議員（河野 浩一議員） 肉用牛と送料無料を協力してくれているということを聞きました。私は肉用牛はあまりやっていないですけど、この送料無料というのは農家の方が一番多いかと思えますけど、皆さん、喜んでおられます。ぜひとも、この事業は進めたいと思います。全額出荷量ということもできないんですけど、大変助かっているとよく声を聞きますので、よろしくお願いいたします。

そして前にも言ったんですけど、毎年、冬場の野菜が五、六年ぐらいから安いんですね。条件がよくて立派にできて、いわゆる豊作貧乏だったと思います。だから、こういうことが続くと本当に、安い野菜を出すようになったら、とにかくやっていけないという方が多くなってきます。これは誰がいいとか悪いとかいう問題じゃないんですけど、そのことは皆さん承知しとっていただきたいと思います。

そして、今朝の新聞に、宮日に出ていましたけど、農地の後継者が10年ぐらい後にはいなくなってしまうという記事が載っておりました。宮崎県の場合は5万町歩の中の1万町歩ぐらいは後継者がいなくなっているということが書いてありました。こういったことも、だんだんと農業がもうからない農業になっていってしまっているからだと思います。そのことはどう思われますか。

○産業推進課長（河野 英樹君） 河野議員の御質問にお答えします。

豊作貧乏というようなお話がありました。たくさん取れるけど、値段が市場で高くつかないという課題等は承知しております。

先ほど、報道のことも言われましたが、私も日本農業新聞を見ておまして、このような記事がございました。沖縄県の石垣島と竹富島というところの商工会青年部と青年農業者、この方々を中心に8月下旬、合同企画で「新価値創造会議コラボで商品化ワークショップ」を石垣島で初めて開催したという記事が9月6日の日本農業新聞にございました。開催の目的ですが、農産物の規格外の活用などで地域経済の発展を担いたいという農業者の思いから開催が実現したようです。島内産を島内で消費する基盤をつくり、市況——河野議員が言われた市況ですね——物価高騰などの外的要因に左右されない生産消費体系の確保を図ることが目的とのことでした。

この取り組みは、本町における川南町産農水産物等消費拡大条例の目的にも近いと考えますので、関係団体等と今後、協議を進めてみたいと思っております。

以上です。

○議員（河野 浩一議員） なかなか、何回も言いますが、もうからない農業をやっていくのは本当に厳しいことだと思います。ぜひとも町長、職員の皆さんもですけど、農家の家庭訪問を頻繁に行って、意見を聞いて回っていただきたいと思います。よろしくお願いします。

次に行きます。

まず初めに、先日、教育課が行った町立中学校の統合に関するアンケートのことです。その中のアンケートの間6に「唐中の校舎を統合する」「国中の校舎を統合する」「新中学校に統合する」とあり、唐中628、国中200、新中1,765とあるが、これの回答用紙ですね、そのチェックといえますか、監査といえますか、そのチェックはしたのか、お聞きします。

○教育長（平野 博康君） 河野議員の御質問でありますけれども、昨年12月に実施しました川南町立中学校統合に関するアンケート調査の具体的な実施方法等につきましては、教育課長よりお答えさせていただきます。

○教育課長（三好 益夫君） ただいまの御質問にお答えいたします。

まず、今回のアンケートの実施に至った経緯からちょっと御説明させていただきたいと思います。

令和3年3月に教育委員会のほうで実施しましたアンケートがございます。こちらのほうの集計を教育委員会のほうで行いしましたが、前町長より信頼性に疑いがあるという御意見があり、前町長の指示で令和6年12月のアンケートにつきましては業務委託で行うという流れになりました。

今回、中学校基本計画作成業務委託という業務の中でアンケートを実施したんですけど、こちらのほうは指名競争入札を行い、それを落札した業者と契約を締結し、業務を履行していただいております。アンケートは、この業務委託の一部であり、業務の委託者がアンケートの集計を教育課のほうに提出を行っております。当然提出されたものに関しては教育課のほうでチェックをちゃんと行って、集計結果の確認を行って、適切に業務が行われることを確認をしております。

以上でございます。

○議員（河野 浩一議員） 回答用紙のチェックはしたということで間違いはないですかね。それから調査、この委託料の算出方法はようになっておるのか、説明をお願いします。

○教育課長（三好 益夫君） ただいまの御質問にお答えいたします。

調査費用の予算額につきましては、このような業務を受託できる業者数社から見積書を徴収して、それを参考にしてということで算出を行っております。入札は指名競争入札で行われ、落札者と契約をしております。今回のアンケートは、この契約の一部に必要な経費をちゃんと算出した上で、その中に盛り込まれております。

また、議会勉強会にて議会より、18歳以上の全員にアンケートを行うように御意見があり、こちらは対象者のほうを変更して実施をいたしました。それに伴い必要な経費を増額して変更契約を行っている経緯になっております。

以上です。

○議員（河野 浩一議員） 18歳以上の住民全員に送ったということですけど、総勢で何人ですか。

○教育課長（三好 益夫君） ただいまの御質問にお答えいたします。

総数のほうを今ちょっと把握しておりませんので、後ほど、また御報告いたしたいと思います。

以上です。

○議員（河野 浩一議員） 総数のほうは後でお伺いします。

次に、小中一貫校についてお伺いいたします。

唐中、国中、共に自然環境に恵まれていて、いい学校だと思っております。唐中は九州では一番広い敷地があり、この間聞いたら6町歩ぐらいあるそうです。ここを使わずに、ほかに移すということは、私はもったいないと思います。グラウンドは300メートル、サッカー場、テニスコートと、十分な広さがあり、ここを捨てて、ほかに移動することは大変もったいないと私は思います。

小中一貫校は、近頃耳にするようになったんですけど、一貫校にはならないが、小学校は川南小学校、中学校は唐中にしたらいい関係が得られるのではないかと私は思っております。そのところはどうでしょうか。

○教育長（平野 博康君） 小中一貫校に関しましては、昨日の徳弘議員の御質問でもお答えいたしましたけれども、改めてちょっとお答えさせていただきます。

小中一貫校につきましては、教育委員会としましても、設置することができるのであれば、それが望ましいと考えておりますが、現段階で設置しようとする、仮に令和12年4月に開校するとした場合、児童生徒数が800から900名規模の学校が必要となります。今後、児童生徒数の減少が見込まれる状況の中で、このような大きな学校を設置するにはかなり無理があると考えております。

中学校の統合につきましては早急に進めていく必要があると考えておりますが、小学校の統合につきましては、段階的な統合を含め、いろいろな場合を想定しながら、どのような統合の在り方がよいのか、しっかりと検討していく必要があると考えております。

それと、既存の中学校の活用は考えられないかという御質問だったかと思っておりますけれども、中学校を統合するに当たっては、既存の校舎や敷地を活用するという選択肢も考えられますが、両校の校舎が老朽化していること、町中央部が子どもたちに恵まれた教育環境を提供できること、町中央部が両校から約3キロの中間地点に当たることなど、総合的に考えて中央部がふさわしいと判断したところでございます。

以上です。

○議員（河野 浩一議員） たしか唐中の卒業式は、令和7年度で78回ぐらいだったと思います。唐中ができて78年経過したということだと思います。間違っておるかもしれませんが、大体そのくらいだったと思います。そして、全国どこの学校でも似たような頃にできた学校がほとんどだと思います。どこの学校でも修理をしながら使っていると私は思っているんです。川南だけは新しい校舎を造るというのは、ちょっともったいないような気がします。

それから、もう五、六年前だったと思うんですけど、役場の職員の人が、唐中はあと

30年たったら崩してしまわないかとぞ、と言われました。この言葉は正解なのかどうかは分かりません。しかし、私はこれを聞いて、30年後に崩すということになってしまふのなら、あと30年間は使えると思いました。それから、話を聞いて5年ぐらいたったかもしれないけど、5年たったとしても、あと25年は使えると思うんです。どのようになったら使えないか使えるかということは個人の判断で、いろいろ考え方が難しいとは思いますが。

そして、新中学校を造るのには70億円ぐらいかかると人から聞きました。これが、金額がうそか本当かは私は分かりません。しかし、それを聞いたら、それぐらいかかるのは本当かなと私は思いました。70億を町民1万4,000人で割ったら1人50万円の負担になるそうです。役場が、中学校を造るから1人50万円ずつ持ってこいとは言わないだろうけど、1人50万の負担がかかってくることになると思います。今の——新しい中学校を造ってそんな大金をつくるよりか——唐中を使ったほうが、修理と改修すれば安く上がっていくんじゃないかなと私は思うんですけど。

○議長（中村 昭人議員） 河野浩一議員、通告書では小中一貫校についての考えということだったんですけども、その質問の上で、その質問ということによろしいですか。小中一貫校について考えなんですけど、既存校の修理だったり活用ということになっているんで、小中一貫校についての質問ということをお願いしたいと思います。

○教育課長（三好 益夫君） ただいまの御質問で、まず、70億というお話があったんですけど、先ほど説明しました令和6年12月のアンケート、こちらのほうで試算した金額というのが約70億円という金額が出ております。こちら、どのように試算したかという、もともと統合中学校を造る計画であった建物の単価、現在の単価でということ再度計算して70億という建設費のほうで試算されております。

それから、このときに併せて唐瀬原中学校、国光原中学校をそれぞれ長寿命化改修したときにどれぐらいかかるかということも試算されております。唐瀬原中学校のほうで約25億、国光原中学校のほうで約20億、費用がかかるというふうになっております。

またこの中で、今、長寿命化の工事をやった後、約20年後——新設でもそうなんですけど、20年後にはまた大規模改修を行った上で、30年から40年後にはもう建て替えをしないといけないということが、この委託業務の中で出されているところです。

施設、金額等については以上です。

○教育長（平野 博康君） 現在の既存の学校を活用して、改修しながら活用できるのではないかと御質問だったかというふうに思いますけれども、今の学校教育を照らしたときに、今の校舎ではどうしても、やはり物理的に難しい状況が多々ございます。バリアフリーもそうですけれども、子どもの学習環境としての造りとか、そういったことも加味したときに、やはり子どもたちに恵まれた教育環境を提供したほうがよいという判断で新しい学校の設置を考えたところでございます。

以上です。

○議員（河野 浩一議員） それでは、とにかく新しい学校を造ったほうが子どもたちのためにいいということですけど、ほかの学校ですね、そういったところもこういったことをするのかどうか。私は、ほかの学校はそのまま使っていっているんじゃないかなと思うんですけど、ほかの学校の様子はどんなふうでしょうかね。

○教育長（平野 博康君） 今回の学校設置に関しては、県内の状況等の情報も仕入れているところでございます。ほとんどの市町村が、今、議員がおっしゃったように既存の学校を活用して新中学校統合をしているという実情でございます。

ただ、一概に、ほかの市町村と川南町と照らしたときに、じゃあ参考になるかということに関して申し上げるとなかなか一致しない部分が多々ございますので、これからの川南を考えたときに、やはり新中学校を設置したほうがいいという判断に至ったということでございます。

○議長（中村 昭人議員） 河野浩一議員に申し上げます。小中一貫校についての考えで答弁を考えていますので、小中一貫校のことについての質疑ということで整理をお願いいたします。

○議員（河野 浩一議員） ちょっと私が一貫校と中学校との話を混乱させてしまいました。これから唐中の話を、中学校の話だけをちょっととしていいでしょうか。

○議長（中村 昭人議員） 小中一貫校の通告ですので、例えば小中一貫校がどうあるべきかとか、どのように考えているかという質問構成かと思います。

○議員（河野 浩一議員） 先ほども言ったように、小中一貫校は川小と唐中がいいんじゃないかと思っております。一貫校にはならないけど、近くにあって、両方とも広い敷地があって、自然環境もよくて、いい学校になるんじゃないかなと私は思っております。何か答弁があったらお願いします。

○教育長（平野 博康君） 小学校は川小に、中学校は唐中に統合して小中一貫校ということであるかと思うんですけども、いわゆる離れたところの連携型の一貫校ということになるのではないかと思います。今現在、その形で小学校、中学校それぞれ点在しておりますけれども、その考え方で進めているところではございます。

ただ、唐中と川小の一貫校ということであると、今回、私たちが新中学校を設置する一番の理由としての教育環境等を考えると大きく変わらないということになりますので、やはり中央部に設置するのが望ましいのではないかなというふうに考えております。以上です。

○議員（河野 浩一議員） 中央に造った場合に、一貫校にするには相当な敷地といろいろな資材が必要になってくると思います。その点を考えたら、一貫校にはならないけど、川小と唐中がいいんじゃないかと私は思っているんです。中学校だけで70億なら、小学校も造るといったら莫大な費用がかかると思います。そこんとはどんなでしょうかね。

○教育長（平野 博康君） 小中一貫校ということでありましてけれども、先ほどお答え

しましたように、現段階で小中一貫校を設置するにはやはり無理があるかなというふう  
に考えておりますが、児童生徒数の減少に伴い、いずれは小中一貫校にするということ  
も考えられるため、いろいろな場合を想定しながらしっかりと検討していきたいという  
ふうには思っております。

以上です。

○議員（河野 浩一議員） これで一般質問を終わります。

（ 午前9時37分 終了 ）